

第12回東職ランチョンセミナー

無料・予約不要・  
昼食持ち込み可

# 八ッ場ダムの長期的な安全性は 保証されているのか！

講師：伊藤谷生氏（千葉大学名誉教授/構造地質学）

2015年3月4日(水) 12:10～13:00(開場は11:30)

会場：工学部新2号館211号室

八ッ場ダムは、吾妻川の中流に位置する名勝・吾妻渓谷に1952年、利水と治水を主目的に計画されたものです。1986年に基本計画の公示、1994年から道路、鉄道などの付帯工事が進み、根強い反対運動にもかかわらず本年1月22日、本体工事が始まりました。しかし、水需要を含めて社会状況の変化によりダムの必要性はなくなっているのです。

にもかかわらず1967年以来、巨額の事業費が投じられ、2004年9月には全国一の4600億円に増額されました。今後もさらなる増額と工期延長の可能性が高いとされています。

このダム建設は長期的な安全性にも大きな問題があります。国土交通省は、地すべり対策や水没予定地住民の移転代替地の安全性確保は十分なされていると断言しています。しかし、ダム周辺は熱水変質帯が広く分布しており、仮に建設時には安全基準を満足していても湛水後は急速に基盤や盛土の強度が低下する危険性を考えなければならないのです。今回のセミナーでは長期的な安全性の見地から八ッ場ダム問題を考えます。



(211号教室は1階です)

工学部新2号館



主催：東京大学職員組合

共催：東京大学工学部教職員組合

Tel・Fax：03-5841-7971

E-mail: syokikyoku@tousyoku.org

<http://tousyoku.org>

東京大学で働くすべての教職員の皆さん！  
東大をフレックな職場にしないために、  
職員組合に声をお寄せください。